

チャレンジコミュニティ

Challenge Community Club

通信



第31号

2016.1 vol.31



赤坂南部坂庭先の梅



宮古島・伊良部大橋



東京湾見学集合写真



新東京丸



NHK見学集合写真

CONTENTS ■ ごあいさつ

港区保健福祉支援部長 青木 康平
明治学院大学副学長 亀ヶ谷 純一

■ 2015年度夏・秋のイベント特集

宮古島・CCクラブ研修旅行
今年もまた新東京丸に乗って東京湾を見学しよう
NHK歌謡コンサート見学

■ 活動報告～町会活動特集～

■ 運営委員会報告・活動計画

チャレンジコミュニティ・クラブの皆さんとともに地域の課題解決を！

保健福祉支援部長 青木 康平

チャレンジコミュニティ・クラブの皆さんには、日頃から様々な場で地域の課題解決のためご尽力をいただいております。総合支所業務及び保健福祉業務を担う者として、さらには区職員として御礼申し上げます。



私は、これまでチャレンジコミュニティ大学で、企画経営部財政課長、防災危機管理室長、そして今年、保健福祉支援部長として延4回、またチャレンジコミュニティ・クラブの活動報告会とシンポジウム・交流会で、多くの方々と一緒に勉強し、貴重な経験をさせていただきました。その際、講義の中で鋭いご質問をいただき、区民目線での事業への見方・評価を改めて教わり、その後の業務の捉え方を見直したことがありました。また、講義終了後、皆さんとの話に没頭し、次の講義にご迷惑をかけたこともありました。さらに、講義の続編をご依頼いただき、少人数で意見交換する機会を与えていただきました。そのすべてに共通して言えることは、チャレンジコミュニティ大学に入学する皆さんは多くの経験や知識を持ち、それを地域に生かしていこうとする熱意に満ち溢れていることです。

国や他自治体で少子高齢化が叫ばれる一方で、港区では高齢者人口の増加はもとより子ども達の人口も増加しています。それに伴い、現在、福祉サービスの担い手不足の深刻化が危惧されています。そのような中、皆さんの持つ経験・知識や熱意が、今後の地域福祉を支えていただけるものと思います。既に、多くの方が民生委員・児童委員、保護司や赤十字奉仕団員として保健福祉分野をはじめ、様々な分野でご活躍いただいております。今後とも皆さんのお力をお貸しいただき、「区民一人ひとりが安全・安心を実感し、港区に住んで良かった、住み続けたい。」と思えるよう、地域の課題を迅速かつ積極的に解決していきたいと考えております。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

ゆっくり動いて元気になろう

副学長（社会連携担当） 亀ヶ谷 純一

CCクラブの皆様こんにちは。スポーツ・健康分野を担当している亀ヶ谷です。今年度も例年同様に講義・実技は「高齢者の健康と体力」をテーマに面白く、楽しく、を意識しながら講義を進めています。さて、せっかくの機会ですので健康に関するお話をしたいと思います。



最近手にした本『なぜ「これ」は健康にいいのか』（小林弘幸）は自律神経のコントロール法の重要性を説いています。自律神経のバランスを意識的に変えることで、すべてが良い方向に変わるといえるのです。その方法は、「ゆっくり」を意識する。ゆっくり呼吸し、ゆっくり動き、ゆっくり生きることだと言っています。そうすることによって、下がり気味の副交感神経活動レベルが上がり、自律神経のバランスが整うというものです。

また、男女の体力の低下と副交感神経との関係からも興味ある仮説を唱えています。男女とも体力及び副交感神経がガクッと低下する時期が一致しており、それが男性は30歳を過ぎたあたり、女性は40歳を過ぎたあたりだという。つまり私たちが実感していた急激な体力低下は副交感神経が急降下したことによる「自律神経のバランスの乱れ」が原因だった可能性があるということです。さらにはこの現象が男女に寿命の差をもたらしているものなのではないか、との仮説も立てています。なぜならば副交感神経が低下することにより、血管の老化が進み、同時に免疫力も低下し、体は病気になりやすい状態になってしまい結果として寿命に差が出るという説です。真偽のほどは定かではありませんがあなたがち間違っているとも思えません。「ゆっくり」に話を戻します。これも副交感神経と関係しています。健康ということを考えると呼吸が浅くなってしまいう運動はよくないということが言えます。具体的にはきちんと横隔膜を上下させて行う「深い呼吸」をしながら行える程度の運動がいい運動です。深い呼吸が行えれば、副交感神経は低下しないので、末梢まで十分な酸素と栄養を供給しながら運動することができます。例えばウォーキング程度の軽い運動でも充分だということです。どうぞ皆さん、ゆっくり動いてますます元気になってください。

2015 年度夏・秋のイベント特集

宮古島・CCクラブ研修旅行

{訪問記}

明治学院大学社会学部付属研究所では、宮古島市社会福祉協議会と協同して、ここ数年にわたり宮古島における一人暮らし高齢者の家庭訪問による生活調査を進めてきました。今回、8月31日～9月3日の間に、地域福祉の研修目的でのCCクラブ宮古島研修旅行が計画され、明治学院大学河合克義教授、学生にCCクラブ会員が加わり、総勢13名で、福祉関係施設を訪問しました。

9月1日(火)

<宮古島市役所・福祉部福祉調整課>

宮古島の地域概況と市行政施策について、福祉部調整課の仲原也寸志氏と同課係長石川博幸氏に伺いました。



「平成11年に5市町村が合併し10年以

宮古島市役所上経過したが、身近な行政サービスが、距離が遠くなるなどからサービス低下になりなかなかうまくいかない10年であった。地域福祉計画の設定はするものの、なかなか思うように実施できていないのが実情である。高齢化率は24%で、人口も55,000人から減少傾向にあり、大学や就職先が少ないので、若者が島を出る傾向が強く、先行き30,000人に減少すると想定されている」ことなどのお話でした。

ただ、アンケートでは、市民の9割が住み良い地域と感じているそうです。島の強みは、素晴らしい海に囲まれた観光業にあると思われます。私達も、当日の宿舎のホテルで、各地から観光に来たという若者達に会いました。

<宮古島市社会福祉協議会>

宮古島市社会福祉協議会事務局長下地信広氏の宮古島の住民活動と宮古島市社会福祉協議会の事業の話より、地域住民と密着し、親身になって支援サービスが

行われているのが感じられました。地域包括支援センターが設置され、うまく機能しているようです。特に高齢者への見守り、配食や買い物支援に力を入れ社協独自の事業として運営しています。保健師・正看護師、社会福祉士と主任介護支援専門員の連携により、ワンストップサービス確立を目指しています。

9月2日(水)

<特別養護老人ホーム 松風園>

自力で生活できない高齢者14名(平均年齢89歳)の方が、車椅子で生活している特養を訪問しました。

園長のお話や、介護している方々の笑顔がとても明るかったのが印象に残りました。玄関から外に出たとき、燦々と輝く太陽のせいで、ホーム全体が何となくのんびりとした感じでした。

(6期 斎藤 正精)



特別養護老人ホーム 松風園での集合写真

{感想文}

記憶に残る貴重な体験

8期 野村 知義

どこまでも透き通ったエメラルドグリーンの海、紺碧の空、絵葉書のような宮古島を訪問した。少子・高齢化の社会にあっては、宮古島も東京と同じ課題を抱えている。社会福祉協議会職員の皆様は、介護施設の現場で一生懸命運営に携わっている。事務局長下地信広様はじめ情熱的な協議会の皆様との交流会では、三線の演奏や輪になって踊ったエイサー等を楽しみ、親睦と大きな感動と喜びを得た。私達を引率していただいた明治学院大学河合克義教授と2名の学生の方に感謝申し上げます。

新たな発見を求め、皆様と共に外へ出ましょう。

～今年もまた新東京丸に乗って 東京湾を見学しよう～

今年の秋のイベントの第1弾として、昨年好評であった新東京丸による東京湾クルーズが、10月13日に開催されました。先着順の申し込みで実施され、会員29名、会員の紹介者8名、CC大学現役の9期生13名の合計50名が参加しました。

出港30分前に竹芝小型船ターミナルに集合し、乗船前の記念撮影の後、雲一つない青空の下、13時25分定刻5分前に出港しました。通常は小学校高学年の乗船が多いそうで、都庁港湾局OBのベテランガイドさんの船内放送は、丁寧で非常に理解しやすく楽しい説明内容でした。



乗船前の説明

新東京丸は昭和58年に竣工し、全長31.89メートル、型幅7.84メートル、深さ（高さ）2.90メートル、総トン数197トンあり、大変きれいに整備されている印象です。

竹芝栈橋を出港した船は、日の出ふ頭、芝浦ふ頭を右手に見て、レインボーブリッジを通り過ぎると、右手に東京港の特徴である大型カントリークレーンが活躍している大井コンテナふ頭が、左手には青海コンテナふ頭が見えてきます。東京港は、昭和42年から貨物のコンテナ化が進み、現在の荷扱い金額の41%が中国、13%がアメリカ合衆国で占められています。今年は、最大10万トンのコンテナ船が入港し、今後はさらに、23万トンが入港可能なふ頭の建設計画など、大型化が進んでいます。船は臨海トンネル上を通り過ぎ、東京港外に出ます。海上は多くの船と行き来しますが、清掃船も多いことが東京港の特徴でもあります。現在、

東京港の埋め立ては最終段階で、沖合の中央防波堤内側埋立地の埋め立てがほぼ限界となり、平成8年からは、さらに沖合の海域に新海面処分場（約480ha）の整備が開始されてきましたが、これが東京湾内最後の処分場となるため、都民のより一層の廃棄物の減量化、軽量化が求められています。

船は、本日の最南端部の新海面処分埋立地沖を迂回し、3年前に完成され、最上部の高さ約88メートルの東京湾ゲートブリッジをくぐります。海面から52メートルのレインボーブリッジより、さらに30メートル以上の高さがあります。東京オリンピックの際は、船上ホテルにもなる大型クルーズ船が多く来港するようです。右手に若洲海浜公園を見て、ゲートブリッジを通り過ぎると、左手には今年一部が公開される海の森公園が見えてきます。今回は、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた説明が多く、この近辺は、馬術やボートの会場としての検討が進んでいるようです。

さて、今日の第2見学地が東京みなと館のため、船はいよいよクルーズ最終着岸地青海ふ頭に向かいます。この近辺はフェリーふ頭やお台場ライナーふ頭があり、停泊している船の姿が変わってきます。

船は青海ふ頭に着岸しました。クルーズのみの参加者は帰宅されましたが、多くの方が東京みなと館に向かいました。「東京のあゆみ」（新酒番船入津繁栄図）「国際貿易港東京湾」（コンテナ基地）「臨海副都心」（副都心全体図）の模型とパネルを見ながら説明を聞きました。



東京みなと館

東京港を海と陸の高所と異なった視点で観察し、それぞれから見る事ができた美しい景観と共に、重要な役割を再認識する良い機会でした。

（7期 太田 則義）

～NHK 歌謡コンサート見学～

{見学記}

10月20日、秋のイベントの第2弾、NHK歌謡コンサート見学に、抽選で選ばれた17名が参加しました。

かつてご自身も「NHK歌謡コンサート」の司会を担当された徳田章アナウンサーの案内で、楽屋入口に向かい、歌謡コンサートデスク篠原伸介氏に中に案内されて、2階中央の最前列と2列目に着席しました。

自席から見るホールの光景は、光輝くステージの正面左に出演者席、正面奥に演奏者席、正面右手に歌手が登場するセットが組まれていました。1階観客席の前方には、3台のTVカメラとクレーンカメラがあり、それに10人程度の関係者がステージを見つめていました。

リハーサル開始の秒読みが始まり、5時丁度にテーマ音楽の演奏にのせて、高山哲哉アナウンサーのオープニングコメントが響き、ステージは「失恋」をテーマに、三山ひろしさんの「哀愁列車」で幕を開け、13人の歌手の熱唱に聞き入りました。あっという間の45分間でしたが、番組制作には、出演者の何倍もの裏方さんが携わっていたことを確認しました。

見学後、ホールのロビーで、徳田アナウンサーを囲み全員でスナップ写真を撮って、終了となりました。

(5期 田中 勝美)



ホール前記念写真

{感想文}

画面に映らないものを見た 5期 暮地 友子

徳田章アナウンサーの案内で、舞台の袖で説明を受けた後、客席2階の1列目から、私達だけの貸し切りの見学。この席は天皇陛下がお座りになるロイヤルシ

ートで他の座席より幅が広がっていると。出演者全員が舞台の上に板付きになり、客席の照明が落ちる。緞帳が上がるのに40秒。舞台監督の秒読みの声と張り詰めた現場の緊張感が伝わってくる。80歳を超えた菅原洋一さんは、全く衰えを知らない甘い声で「今日でお別れ」を熱唱。中西保志さんの「最後の雨」が始まると、舞台後方から大量のスモーク（ドライアイス）がもくもくと湧き、あっという間に雲の中のように真っ白に。唄が終わると、10人ぐらいの裏方さんがモップを持って舞台上に現れ、必死に煙を全部舞台の下に掃き落としていた。

帰宅して8時からの本番をテレビの画面で見ると、先程まで見ていたものは、まるで嘘のように思えた。普段私たちがテレビで見ているのは、ほんの一部分を切り取ったものに過ぎず、実際はその何倍もの空間で動き回っている。完成して視聴者の前に提供される映像は、美しく魅力溢れるものだが、その陰で働く沢山のスタッフの姿を見ることができたことは、非常に貴重な体験だった。

ライブに向き合い感動した 4期 野上 一治

渋谷のNHKホールは、友人でもある小椋佳さんの公演を観に2、3度行ったことはあるが、今回は、貴賓席になる2階席最前列に座って、舞台裏も見ることができた。5時から45分間、歌手全員が、楽団の演奏をバックに、本番さながらに歌うところを視聴できた。その2時間後の8時から、家のテレビで本番を観た。そして、改めてNHKホールでは、リハーサルとはいえサウンド豊かなライブに聴き入っていたことに思い至った。

この日の「歌謡コンサート」の副題は「別れの名曲集」だった。三橋美智也さんの「哀愁列車」から始まり（歌手は三山ひろしさん）、佐川満男さんの「今は幸せかい」（歌手は竹島宏さん）、菅原洋一さんの「今日でお別れ」（本人）に混じって、平成の歌では中西保志さんの「最後の雨」（本人）等々。正直、テレビで本番を見てもさほど感じなかったのに、NHKホールのリハーサルでは、ライブに向き合い感動を覚えた。歌手の中に松崎しげるさんもいた。もう10年前になるが、当時の職場の夏の納涼祭に来てもらったが、その夕べを懐かしく思い出した。

活動報告～町会活動特集～

三田一丁目町会（副会長兼事業部長）

伊藤 昌一（5期・芝地区）

当町会は、昭和 27 年に町内会、自治会が発足し 42 年に現在の町会に名称変更し今日に至っています。現在 2,200 世帯、人口 4,300 人のうち、町会加入 280 世帯の規模です。組織は町会長、副会長 6 名、8 部制、役員 40 名で運営しています。

私はこの町会で生まれ育ち 69 年で、約 20 年間役員を務めています。事業部長として、1 月の餅つき大会、4 月のお花見、11 月の町会旅行を主催しています。他に役員として毎月一回のリサイクル活動、夏のラジオ体操、「火の用心」の防災活動、大晦日の神社での初詣客の接待、町内老人会の世話人等をしています。他に防犯協会主催の行事や港区町ぐるみ運動会、地元小学校の行事等の参加、国勢調査員もしています。

町が一番盛り上がる秋の祭礼は本祭りと裏祭りを一年毎に、本祭りは山車神輿の渡御と盆踊り、裏祭りは模擬店と盆踊りです。祭礼時は実行副委員長もしています。

当町会は再開発事業地域で、既に高層マンションが 2 棟あり、今後も 1,200 世帯規模のマンション計画があり、将来は戸建て住宅が激減します。現



三田一丁目・元神明宮祭りに在の役員は地付きの戸建て住宅の人達で皆顔なじみですが、移転や転出希望の人もあり、将来は町のあり様に大きな変化が予想されます。今後も町会が活動していく上では、役員の若返り、マンション住人や若い世代と地付き住人の交流等が挙げられます。役員改選時に新旧交代を推進し、交流は町会掲示板、回覧板で行事を周知してきた結果、餅つき大会、火の用心への参加も増えてきて、今年の祭礼も世話人と神輿担ぎ手 140 人、山車子供神輿で子供と付添父兄 100 人と大盛況で、活気笑顔も増え風が変わりつつあるように思えます。

この町の雰囲気を残すべく「地域社会へ貢献」を役員の一員として力添えをしていきたいと思っています。

芝浦三・四丁目町会

青木 稔（2期・明虹会地区）

江戸時代、東海道の東側は、遠浅の海辺でした。人情落語「芝浜」で語られている江戸前の魚が捕れた海辺は、明治 5 年に、海の中の防波堤の上に日本最初の鉄道（後年の山手線）が敷設されました。さらに明治 13 年秋より埋め立てが始まり、陸地が造成されて芝の浦は海辺が一変して芝浦という町になりました。現在、芝浦には 4 町会があり、私が在住して参加していた「芝浦三・四丁目町会地域」は、芝浦アイランド等に大規模高層住宅が数棟建設されたことにより、町内人口約 5,000 人だった街は、17,000 人越えに急増し、港区ベイエリアでは最大規模の町会となりました。

この町の最大の行事は、7 月の芝浦まつりと 9 月の運河まつりです。「運河まつり」は、4 町会と商店会と

の共催で大勢の人で賑わう地域の祭りに発展してきています。目玉は、無料の運河クルーズで、水辺から街の景



芝浦・運河まつり観を眺望しながら納涼気分を実感できることです。

町会の主な日常活動は、清掃活動と防火・防犯活動です。清掃活動は、毎月第 2 土曜日、朝 9 時から町内の公道・植え込みを隈なく見回り、捨てられたゴミを回収して歩きます。ここ数年でゴミは減少して綺麗な町になり、参加者の顔が見えるコミュニティへと成長してきています。

防火・防犯活動は、毎月第 2, 4 木曜に車と徒歩に分かれて町会内を巡回パトロールします。徒歩チームは、拍子木を敲いて火の用心と街の安全を呼びかけて町内を巡回します。

人口の急増した芝浦は保育園も多く子育ての街です。「愛育会病院」が開設され、区立しばうら保育園（あっぱい芝浦）も増設されました。未来を担う子供たちの心の故郷になるように街の年輪を重ねています。

また、2020年のオリンピック・パラリンピックに向けて、田町駅東口の再開発や近隣には山手線の新駅開設も進捗しており、まだまだ再開発の街を町会のみなさんが見守っています。

高輪一丁目・松ヶ丘会（町会長）

安藤 洋一（2期・高輪地区）

松ヶ丘会は旧高松宮邸の敷地の一部を終戦後、住宅地として分譲され、その住宅地を維持・管理するためにできた町会です。町会は昭和23年から始まって、現在の会員数は約210世帯です。戸建て住宅を主体にしているが、集合住宅も数棟あります。松ヶ丘会の地域の特徴は、周辺にまとまった緑があり、高輪区民センター、高輪子ども中高生プラザ、高松中学校など公共公益施設に恵まれていることです。来年4月には、区民協働スペースもオープンします。

私は、前会長から推薦され副会長を2年勤めた後、会長を引き継ぎ、8年間勤めています。組織は12の組（班）に分かれて、半年交代で組当番を決めており、町会費の徴収や回覧板の配布、消火器の管理等を行っています。役員は15名で、総務、会計、防災、イベントなどそれぞれ役割を分担しています。

町会活動の目標は3つ掲げています。

安心・安全なまちづくり：町会独自の防災訓練、年末パトロールなどをはじめ日常的に相互の見守りに留意しています。ここ10年、町内で火災、犯罪、交通事故はほとんど発生していません。

会員相互の親睦：新しい会員も多くなり、会員相互に顔を合わせる機会が少なくなってきた、会員親睦のために、4年前から近隣5町会合同の桜まつり



高松・桜まつり

りを始めました。多彩なイベントやお店が出店し、賑わいのあるお祭りとなっています。また、会員には、入学・成人・敬老のお祝い金や弔慰金を差し上げています。

周辺公共機関や町会、大学、商店会等の連携：町会独自の活動は限られています。町会をより効果的に活動させるには、高輪地区総合支所、警察署、消防署な

どの公共機関、周辺町会、大学や商店会、CCクラブなど諸団体との連携が必要です。

これから特に力を入れていきたいと思っています。

赤坂八丁目町会（町会長兼赤坂青山町会連合会会長）

西 勇治（3期・3A地区）

現在の場所に住んで40年経ちました。この赤坂八丁目町会は昭和29年（1954年）に町会連合会と同時に設立されました。町会は殆ど集合住宅で世帯数も1,200世帯を越し、赤坂郵便局、乃木神社、山王病院等も町内にあります。町会の役員は22名で男女半々です。主な活動としては、「赤坂八丁目町会だより」（毎月1回発行）、防災関連では「防災セミナー」の開催、港区防災訓練や赤坂小学校緊急時避難所訓練への参加、環境パトロールや年末には夜警パトロールを行っています。また、毎年「町会バス旅行」も行っており、祭りでは赤坂氷川神社連合渡御に参加し今年も町会神輿を出し、祭りを盛り上げました。

私は平成14年から町会活動に参加しました。初年度から「町会だより」を発行し、皆様に知っていただきたいお知らせやイベントを記載し、掲示板は勿論、マンションのロビーや各方面に配布しております。そのお蔭で、13年前は必ずしもうまく機能していなかった町会活動がスムーズに進むようになってきました。この4月から「町会だより」の発行が若い世代に移行し、世代交代のきっかけになると思います。町会が高齢者から若い世代が一体となって運営していく事が大切で、まさに「継続は力なり」です。



赤坂・氷川神社連合渡御課題は防災対策の徹底、高齢者対策、児童健全育成への援助活動の他に、町会加入者の増加、役員の増強、財政基盤の確立等があります。町会や連合会活動の中で赤坂地区総合支所、赤坂警察署、赤坂消防署等色々な団体との交流も多く、これらの交流も大切にしたいと思います。

今後も地域に貢献できればと思い活動を続けます。

■運営委員会報告

活動実態調査と「このゆびと～まれ」寄稿のご協力お願い 地域連携部会長 野村 知義

CCクラブは今年8期生を迎え、480名の活動団体となりました。

修了生の皆様の活動領域は地域貢献・地域福祉等多岐にわたり、発足時の想定を大きく超え、活動も深化し広がっています。CC大学の理念の流れを汲む団体も多数新たに立ち上がり、実践の場として明虹会(芝浦・港南地区)、芝CCクラブ(芝地区)、高輪地区CCクラブ(高輪地区)、3Aクラブ(赤坂・青山・麻布地区)のそれぞれに地域CCクラブが発足し、地域活動の場をさらに広げています。CC大学修了生の皆さんが、今後も幅広い分野で継続して地域貢献・地域福祉の活動に快活に取り組む有りのままの姿をリアルに、より多くの区民の皆様に知っていただき、見ていただくことが何より大事なことでないでしょうか。

2012年に実施した活動実態調査の継続としてアンケート調査「CCクラブ 活動実態調査」を実施致しますので何卒ご協力いただけますようお願い申し上げます。

なお、アンケート調査の結果は、2月27日に予定されている「CCクラブ2015年度活動報告会」、今後予定されている「10周年記念行事」においても活用させていただきます。

「CCクラブ 活動実態調査」の詳細については同梱の案内をご覧ください。

「このゆびと～まれ」の発行について

2年前に刊行しましたが、最新版を3月下旬に発行いたします。CCクラブの皆様の自薦、他薦を問わず活動内容を1月27日(水)までにご紹介頂けますようご連絡をお待ちしています。

連絡先：メール送信：ccc.dfo.member@gmail.com

電話連絡：地域連携部会 野村 知義／携帯090-5540-2473 電話03-3582-6398

■活動計画

◎CCクラブ「2015年度活動報告会・交流会～めげないシニアのつくり方～」

2016年2月27日(土) 14:00開始(受付開始13:30) 明治学院大学 白金校舎

第1部：活動報告会(14:00～17:00) 3201号室

第2部：CCクラブ交流会(17:30～19:00) パレットゾーン 1階

詳細は同梱の案内をご覧ください。

編集後記

あけましておめでとうございます。本号では2015年度夏・秋のイベント報告とともに、地域活動の紹介ページを増やすという今年度の編集方針の一環として「町会活動」を特集しました。会報部会の一員として編集の一端に携わり、CC通信が諸先輩方の多大なご努力と会員の皆様のご協力があって、今日まで継続していることが良く分かりました。会報が確実に会員の皆様に届く情報伝達手段としての役割を果たせるよう今後ともご協力をお願いいたします。新しい年が皆様にとって良い年になりますようお祈り申し上げます。(6期 三澤 清)

表紙写真協力／梅宮 浩司様(3期)



チャレンジコミュニティ通信 vol.31 2016年1月1日発行

発行者 チャレンジコミュニティクラブ

事務局 明治学院大学 総合企画室社会連携課

〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

Tel. 03-5421-5247 Fax. 03-5421-5387

Email ccclub@mguad.meijigakuin.ac.jp

http://www.minato-ccc.jp

会報部会

部会長 太田 則義(7期)

部員 南 明治(3期)

部員 関矢加智子(3期)

部員 三澤 清(6期)

協力部員 大竹 裕(5期)

協力部員 及川 廣子(6期)